

内科秘録

四

ヤ 9  
1170  
4



79  
1130  
4

內科秘錄卷之四

目錄

脚氣

瘟黃

歷節風

癰癩

中風

內科秘錄  
卷之四  
目錄

一〇



71-2413




内科秘録卷之四

水戸 棗軒本間救和卿 著

脚氣

濕脚氣

脚弱

濕痺

乾脚氣

緩風

軟脚

脚氣ハ初テ金匱要略ニ出ツ隋唐ニ至テ腫ノ有ル者

ヲ濕脚氣ト為シ腫ノ無キ者ヲ乾脚氣ト云テ二證ニ分ツ夏秋ノ間ニ行ハル、雜氣病ニシテ一感スルキハ毎年之ヲ患ヒテ宿疾ノヤウニナリ内因病ニ似タレト實ハ外感ニシテ内因ニ非ス其人ノ遺蹟脚氣ニ感シ易ク毎年脚氣行ハル、寸ハ之ニ感スルニテ宿疾ノ再發スルニ非ス譬猶瘧疾ニ感シ易キ者年年瘧ヲ患ルカ如シ千金方ニ風毒脚氣ト稱シ外感ト為シテ桂枝麻黃防風羌活等ノ發表祛風ノ劑ヲ用ヒタルハ自然ノ發明ナリ南宋以降多クハ腎虛ト為シテ漫ニ強陽滋陰ノ劑ヲ用ユルハ

大ナル謬ナリ金匱要略ニ脚氣ハ腎氣九ヲ用ユ腎氣丸ハ即腎藥ニシテ且脚氣ハ身體痿弱シテ陰莖マテモ痿スル者ナレハ此等ノトニテ脚氣ヲ腎虛ト心得タル者ナルヘシ本邦嘉元ノ頃梶原性全萬安方ヲ著シ獨能ク古方ヲ守テ補劑ヲ用ヒス正徳享保ノ際ニ至テ山脇道作望月三英等初テ千金外臺ノ方法ヲ撰用シテ疎利ヲ專務トシタルハ卓見ト謂ツヘシ

脚氣ノ毒ハ初メ脚ニ中リ筋肉ニ入り神經ニ波及ス心臟及動脈モ肉質ノモノユエ亦此ニ著モノナリ

故ニ筋ハ攣急シテ痛ミ皮膚ハ頑痺シテ知覺ヲ失  
シ脈ハ緊數ニナリ心ハ悸動シテ遂ニ衝心スルナ  
リ衝心ハ心筋ノ自ラ攣急スルニテ水氣ノ下ヨリ  
上テ心ヲ衝ニ非ス

初發ハ膈中ノ筋攣急シテ疼ミ又膈中及指ノ岐へ物  
ヲ挾タルヤウニ覺へ兩脚頑痺痿弱シテ歩行スル  
コヲ得ス微ノ物ニモ蹶テ倒レ易ク常ニ沉重倦怠  
ニシテ遠路ヲ行テ疲憊タルカ如ク膝ハ力無クシ  
テ措梯ハ勿論掾ヨリ庭へ下ルコトモ出来ヌヤウニ  
ナリ手ノ指モ不自由ニシテ烟草ヲ捫リ或ハ塵ヲ

撮ムコトモナラス唇ハ麻痺テ山椒ヲ嚙タルヤウニ  
覺へ或ハ胸脇ヲ繩ニテ卷タルカ如ク心下痞悶シ  
テ棒ニテモ入レテ支ユル様ニ覺へ小腹不仁シテ  
紙ヲ隔テ、摩掌スルカ如ク小便赤濁不利、一身悉  
浮腫シ欬嗽出テ、更衣ニ起キハ氣急シテ虚里ノ  
悸動高ク脈緊數ナルハ脚氣ノ諸證ヲ備へタルナ  
リ就中少腹ノ不仁スルハ金匱ニ脚氣入少腹不仁  
トアリテ他病ニ無キ病候ナレハ第一ノ確證ト為  
へシ脚氣ハ諸瘡内攻ト同様ニテ速ニ衝心スル者  
ナレハ衝心ノ催ノ無キウチニ油斷ナク療治スへ

シ第一ニ嚴シク斷鹽シテ舌上胎厚クカ、リ或ハ  
 黄色或ハ黒色ニ變シ心下急ニシテ腹滿スル者ハ  
 九味檳榔湯若シクハ羌活導滯湯若シクハ枳實大  
 黄湯ニ宜シ脈浮數ニシテ惡寒發熱或ハ渴シ或ハ  
 欬シ心下ハ思ヒノ外痞悶少ナク但總身ノ洪腫ス  
 ル者ハ越婢加朮湯加犀角犀角麻黄湯ナリ一等輕  
 クシテ但脚ノミ浮腫痿弱スル者ハ檳蘇散小續命  
 湯六物附子湯桂枝加朮朮附湯ヲ撰用スヘシ  
 嘔吐ハ衝心ノ催ニテ第一ノ惡證トス若シ止サレハ  
 必ラス衝心ス心下滿悶欬逆倚息須臾モ仰卧スル

一能ハサルモノ頸項及肩背ニ腫氣ノ多キ者氣口  
 人迎ノ動脈高クシテ外ヨリ見ユルモノ微シ身ヲ  
 動シテモ氣急シテ言語ノナラヌ程ノモノ小便不  
 利ニシテ却テ腫ノ消スル者ハ皆衝心ノ催ナリ先  
 ツ大陷胸湯甘遂丸草兵丸ノ類ヲ用ヒテ快下利ヲ  
 取り一旦急ヲ救テ後大檳榔湯或ハ木防己去石膏  
 加茯苓芒消湯ヲ撰用スヘシ嘔逆アル者ハ斷鹽ス  
 レハ愈飲食ヲ思ハヌユ若シ少シニテモ鹽氣ヲ  
 食スレハ小便益不利ニナリ一晝夜ニ出ル所約ス  
 ルニ一二合ノミニシテ水氣乍チ増加シ心下滿悶

水藥俱ニ納リカタク衝心ノ催ニナル者ハ茯苓飲  
 合吳茱萸湯神驗アリ此方咽ヲ下ル氏ハ嘔氣乍チ  
 止ミ飲食從テ納マリ小便モ亦快利スルモノナリ  
 予多年此方ヲ試用シテ救急ヲ得ルノ頗多シ  
 衝心ノ候以上ノ診法ニテ預メ知ル、モノナレ氏或  
 ハ未タ衝心ノ候ヲ見ハサス卒然トシテ衝心スル  
 者アリ曾テ一病人自ラ予カ門ニ來テ診ヲ請ヒ歸  
 路ニテ卒死シタルノ有リ又一人藥室ノ席上ニテ  
 卽死シタルノ有リ或ハ隣里鄉黨ノ病人ハ難治ヲ  
 告ル間モナク衝心シテ卒死スル者往往有ルノナ

レハ週時若クハ朝夕ニ診シ前日ニ衝心ノ候ヲ斷  
 リ置ヘシ衝心スル氏ハ心下滿悶手觸レ近ツクヘ  
 カラヌ或ハ被服ヲモ發開シ叫呼呻吟聲啞シテ出  
 テス及覆顛倒シ疲勞シタル者モ苦シミニ堪ヘス  
 シテ屢起上リ呼吸促迫肩息鼻扇シテ須臾モ仰卧  
 スルノヲ得ス嘔吐甚シク煩渴シテ水數升ヲ飲メ  
 氏乍チ吐テ納マラス舌上乾燥シ或ハ黑胎ニナル  
 モ有リ肩背強リ自ラ刀鍼ヲ以テ割開セシノヲ欲  
 シ脈沉微四肢逆冷顔色慘悴シ唇ハ黯赭色ニナリ  
 爪甲モ灰白色或ハ藍色ニ變シ三四時ニシテ死シ

或ハ一二日ニシテ死スルモ有リ一タヒ衝心スル  
 氏ハ他病ト異ニシテ回生スル者無シ衝心ハ峻下  
 ノ劑ヲ用ユル者アレ氏下劑ハ衝心セヌ前ノ手段  
 ニテ迎<sup>ト</sup>モ間ニ合ヌ<sup>ト</sup>ナリ恐クハ却テ命期ヲ促ス  
 ヘシ已<sup>ヤ</sup><sup>ト</sup>無ハ木防已去石膏加茯苓芒消湯へ犀角  
 ヲ加ヘテ與フヘシ先<sup>ツ</sup>大檳榔湯三和散吳茱萸湯  
 豁胸湯紫雪勿弗滿鎮痛液緩消石精ノ類ヲ撰用ス  
 ヘシ

脚氣既ニ衝心シテ諸證較緩慢ニ唯嘔吐甚シキ者へ  
 茯苓飲合吳茱萸湯ヲ與ヘテ救タル<sup>ト</sup>有リ又前證

ニシテ嘔吐少ナク惟心下滿悶ノ甚シキ者へ大檳  
 榔湯ヲ與ヘテ治シタル<sup>ト</sup>有リ茯苓飲合吳茱萸湯  
 ニテ嘔吐ノ止サル者へハ犀角旋覆花湯半夏瀉心  
 湯小半夏加茯苓湯ヲ撰用スヘシ

脚氣瘧疾ハ元是一毒ニシテ外感ナレハ脚氣ニ惡寒  
 發熱スル者アリ或ハ寒慄壯熱自汗出テ、瘧ノ如  
 キ者アリ或ハ日晡潮熱ヲ發スル者アリ以上ノ證  
 ハ舌上黃胎或ハ黑胎ニナル者ナレハ誤テ傷寒ト  
 爲ヌヘカラス常ノ脚氣ハ微熱アルノミニテ黃胎  
 黑胎ニナル程ノ<sup>ト</sup>ハ無キ者ナレ氏歲運ニ因テ大



ニ行ハル、寸ハ必ラス壯熱シテ傷寒ニ似タル證  
ノ多キ者ナリ熱多クシテ舌上黒胎ニナリ心下痞  
悶スル者ハ九味檳榔湯ニ宜シ若シクハ大柴胡湯  
三承氣湯ヲモ撰用スルコト有リ

瘟疫痢疾瘥テ後或ハ産前産後或ハ勞瘵積聚等ノ病  
中脚氣ヲ併病スルコト有リ本病ニノミ拘泥シテ誤  
治スルコト有リ凡ソ大病ヲ患テ後ニ脚氣ヲ併病ス  
ル者ハ疲勞未タ復セサレハ多クハ虚腫ニ屬シ脈  
細數或ハ微數ニシテ呼吸短促ニナリ痿弱甚シク  
浮腫モ亦軟慢ニシテ指ヲ没シ瀉藥ヲ用ユルノ證

ナシ三和散烏苓通氣湯ヲ撰用スヘシ又腎氣丸直  
武湯ノ類其證ニ隨テ與フヘシ

勞瘵及黄胖諸亡血家水氣ヲ併病スレハ虚里愈悸動  
シ脈益數ニシテ喘急甚シク脚氣ニ疑似シキ者ナ  
リ兩脚痿弱小腹不仁等無キヲ以テ脚氣ニ非サル  
コトヲ審決スヘシ

乾脚氣ハ諸證濕脚氣ト同様ニシテ唯水氣ノ無キノ  
ミナレ氏羸瘦シテ津液涸竭シ諸筋拘急シ麻痺痿  
弱ハ濕脚氣ヨリモ一段甚キモノナリ初發ハ兩脚  
及手指唇ヨリ麻痺レ遂ニ總身痿弱シテ屈伸ハ勿

論轉側モナラス木偶土塑ノ如クニ便モ淨器ニテ  
 取ルヤウニナリ虚里ノ悸動高ク脈緊數ナルモノ  
 ナリ濕脚氣ヨリモ治シ難クシテ藥餌モ効ヲ奏セ  
 ス或ハ半年或ハ一年ニ至ル者アリ然レモ濕脚氣  
 ト異ニシテ衝心スルヲ無シ又乾脚氣モ一變シテ  
 微腫ヲ催ス疾ハ速ニ衝心スルコト有レハ常ニ心得  
 ヘキコトナリ乾脚氣ハ斷鹽スルニ及ハス唯膏梁ノ  
 食ヲ禁シ六物附子湯ヲ與フヘシ又桂枝加苓朮附  
 湯ニ宜シ日數過多ニシテ諸藥効ナキ者ハ大防風  
 湯若シクハ獨活寄生湯ヲ撰用スヘシ

初々濕脚氣ヲ患ヒ藥ヲ服シ水氣速ニ消シテ後乾脚  
 氣ニ變シ兩脚羸瘦痿弱シテカヲ入ルコト能ハス  
 膈中ノ筋攣急シ遂ニ屈シテ伸ルコト能ハス諸藥効  
 ナク荏苒トシテ愈サル者ハ芍藥甘草附子湯ヲ與  
 ヘ日ニ浴セシムル寸ハ必ラス愈ル者ナリ  
 脚氣ニ支節煩疼スルコト痛風ノ如キ者アリ諸方書ニ  
 脚氣ヲ風毒ト爲シ中風歷節風ノ類ト同門ニ次々  
 ルハ此等ノ證ニ本ツキタル者ナルヘシ腫ノ有ル  
 者ハ越婢加朮附湯ニ宜シ腫已ニ消シタル者ハ桂  
 枝芍藥知母湯大防風湯獨活寄生湯ヲ撰用スヘシ

府下向井街永野屋茂右衛門ノ弟某初秋ヨリ四肢頑  
 麻痿弱脚筋攣急シテ痛ニ歩行ハ勿論少シモ伸ル  
 不能ハスシテ往來寒熱アリ醫或ハ脚氣瘟疫ノ俣  
 病ト為シ或ハ脚氣寒疝ノ合病ト為シテ之ヲ療ス  
 レ氏荏苒トシテ愈ヘス予診スルニ脈洪大緊數四  
 肢痿弱脚攣急身體羸瘦欬氣急舌胎焦黃色ニ變  
 シ日晡所寒慄壯熱ヲ發シ汗出煩渴スルヲ瘧ノ如  
 ク明日ニ至ルキハ熱解シ身涼ヲ覺フ是所謂脚氣  
 寒熱如瘧モノニシテ瘟疫寒疝等ヲ俣病スルニ非  
 ス即乾脚氣ノ重證ナリ柴胡桂薑湯ヲ與ヘテ全愈

ス 脚氣 和 林 又 綱 文 臨 証 治 方 論 卷 之 三 日 下  
 黒散海蛇散土鼈霜羌青液地芟多利斯曰以セベツテ  
 海葱アエニ刺蛄石等ノ諸藥ハ皆利水ノ奇方ニシテ水  
 腫門ニ載タレハ脚氣ヘモ亦運用スヘシ  
 脚氣及水腫ヲ療スルニハ斷鹽ヲ第一ノ良法トスレ  
 氏富貴ノ者ハ勿論人人斷鹽ヲ難シ醫者モ病人ノ  
 意ニ阿順シテ強テ禁斷セス淡鹽ダシホナレハ大害ノ無  
 キモノノ様ニ心得テ居ル者多シ如何程淡鹽ニテ  
 モ鹽味ヲ食スル片ハ効ノ無キ者ナリ今マテ淡鹽  
 ニシテ効ノ無キ者ヘ斷然トシテ鹽ヲ禁スル氏ハ

必ラス小便之快利スル者ナリ又斷鹽ニテ水氣盡ク去テ後早ク味噌汁ノ淡クシテ道三湯ノ如キモノヲ啜リテモ必ラス水氣速ニ再發スルモノナリ斷鹽ノ法ハ一切ノ鹽味ヲ禁斷シ食器ニモ鹽氣ノ移ラス程ニ心得ヘシ斷鹽スル寸ハ大抵ノ物ハ食シテ可ナリ米飯麥飯赤豆粥蕎麥索麩ノ類棘鬚魚比目魚鯉魚鯽魚木魚其外脂少ナキ魚石決明牡蠣雞卵蓮根慈菇薯蕷百合生薑山葵菜蕺荷冬瓜越瓜胡瓜菜菔乾瓢香蓀昆布海苔裙帶菜ノ類何品ニテモ砂糖味淋及醋ニテ調理シテ食スヘシ兩三日モ

斷鹽スレハ乍チ小便ノ色澄テ快利スル者ナリ水氣去テ後鹽味ヲ食スルニ亦法ノ有ルヲナリ全愈シテ後十日ヲ過テ毎朝淡鹽ノ羹ヲ啜ルヲ一次ツツ五日ヲ經テ何事モ無キ片ハ日ニ三度ツ、平生ノ通りニ食シテ可ナリ若シ鹽味ヲ食スルヲ數日ニシテ又脚ニ微腫ヲ催サハ再々斷鹽スヘシ灸焫ハ古ヨリ脚氣ニ必用ノモノニナリテ素人モ自ラ炷ルヤウニナレリ斷鹽ノ如ク奇驗ハ無キモノナレ氏氣血ノ凝滯ヲ温散シ神經ノ閉塞ヲ開達スル者ナレハ千金方ノ八種ノ灸ヲ全穴或ハ要略シ

テ日ニ炷ヘシ

脚氣應用方

犀角麻黃湯 千金 治脚氣一切證

犀角 麻黃 防風 獨活 防已 川芎

白朮 羚羊角 當歸 黃芩 各二兩 石膏 四兩

生薑 甘草 杏仁 桂心 各三兩

右十五味煎服

小續命湯 同 治卒中風身體緩急口目不正舌強不語神

精奮忽悶亂又治脚弱

麻黃 防已 人參 黃芩 桂心 芍藥

甘草 川芎 杏仁 各一兩 防風 半兩 附子 二枚

生薑 五兩

右十二味煎服

犀角旋覆花湯 同 治脚氣腫滿或行起澀弱小便秘澀喘

急氣衝食嘔不下

犀角 旋覆花 各二兩 橘皮 茯苓 生薑

紫蘇葉 一握

右六味煎服

獨活寄生湯 同 治腰痛攣脚重痺緩弱

獨活 三兩 寄生 杜仲 牛膝 細辛 秦朮

茯苓 桂心 防風 川芎 乾地 人參

甘草 當歸 芍藥 各二兩

右十五味煎服。

吳茱萸湯 同 治脚氣入腹因悶欲死腹脹。

吳茱萸 六升 木瓜 兩顆

右二味煎服。

烏苓通氣湯 回春 治一切疝氣無問遠近寒熱風濕寒氣。

烏藥 當歸 芍藥 香附 糖棗 陳皮 各一錢

茯苓 白朮 檳榔 玄胡 澤瀉 各五分 木香

甘草 各三分

右十三味薑三片煎服。

六物附子湯 三因 寒濕脚氣疼痛不仁兩尺脈來沉細者。

此方主之此痺證也。

茯苓 桂枝 甘草 白朮 防己 附子

右六味煎服。

大防風湯 局方 治鶴膝風兩膝腫大而痛輕枯腊附骨疽。

皮色不變大腿腫痛痢後脚痛軟弱不能行。

防風 白朮 杜仲 當歸 熟苳 芍藥

黃芪 各二兩 羌活 牛膝 甘草 人參 各一兩

附子 川芎 各一兩半

右十三味薑棗煎服。

檳蘓散 濟生 治一切脚氣通氣防壅。

蘓梗 香附 錢各二 甘草 陳皮 檳榔

木瓜 錢各一

右六味薑葱煎服。

大檳榔湯 外臺原名唐侍中療脚氣攻心 此方甚散腫氣

極驗。

大檳榔 七枚 生薑 二兩 吳茱萸 紫蘓

橘皮 木瓜 各一兩

右六味煎服。

三和散 局方 治三焦不和心腹痞悶大便秘難及脚氣上

攻腹脹。

檳榔 甘草 木香 陳皮 芫蕪 白朮 各三

大腹 羌活 紫蘓 木瓜 沉香 各一兩

右十一味煎服。

大黃左經湯 三因 治四氣流注足陽明經腰脚赤腫痛不

可行大小便秘澀。

大黃 一錢 羌活 茯苓 細辛 前胡 枳殼

厚朴 黃芩 杏仁 甘草 各七分

右十味薑棗煎服。

羌活導滯湯 東垣 治脚氣初發。一身盡痛。或肢節腫痛。便尿阻隔。

大黃 二錢 羌活 獨活 各一錢 防已

當歸 各七分 枳實 五分

右六味水煎服。

枳實大黃湯 寶鑑 治溼熱脚氣腫痛。

大黃 酒煨 三錢 羌活 一錢 當歸 一錢 枳實 五分

右四味水煎服。

九味檳榔湯 山脇 治脚氣毒壅。寒熱交作。舌上黃苔。心下痞堅。大小便不利者。

檳榔 一錢 紫蘓 厚朴 枳實 各四分 橘皮

桂枝 各五分 大黃 三分 木香 二分 生薑 五分

右九味煎服。

豁胸湯 和田 理脚氣衝心。

吳茱萸 桑白皮 茯苓 犀角

右四味水煎服。

半夏瀉心湯 大承氣湯 小承氣湯 調胃承氣湯

真武湯 大陷胸湯 芍藥甘草附子湯 柴胡桂薑湯

小半夏加茯苓湯 桂枝加苓朮附湯

越婢加朮湯加犀角 茯苓飲合吳茱萸湯



木防已去石膏加茯苓芒消湯 腎氣丸 甘遂丸

紫雪 草兵丸 忽弗滿鎮痛液 緩消石精 芫青液

地芟多利斯 ハツセペツテン 海葱 蝮姑石

八處灸 千金八種

風市 可令病人起正身平立無兩臂直下舒十指掩着兩脾便點當手中央指頭脾大筋上是

伏兔 今病人累夫端坐以病人手夫際當中央是下傍與曲膝頭齊上傍側夫際當中央是

犢鼻 處在膝頭蓋骨上際外骨邊平處以手按之得節解則是

膝眼 在膝頭骨下兩傍陷者宛宛中是

三里 在膝頭骨下一夫附脛骨外是

上廉 在三里下一夫亦附脛骨外是

下廉 在上廉下一夫亦附脛骨外是

絕骨 在脚外踝上一夫

凡量一夫之法覆手并舒四指對度四指上中節上橫過為一夫夫有兩種有三指為夫者此脚弱灸以四指為一夫也

瘟黄

時行黄疽

天行黄疽

瘟黄ノ名ハ明醫雜著ニ出テ、卽チ天行ノ黄疽ナリ  
千金外臺等ニ黄疽ノ一證ニ外感ニ屬スルモノ有  
テヲ論セリ常ノ黄疽ハ肝膽ノ二臟自ラ壅閉シテ  
胆汁下流スルヲ得ス逆行シテ皮膚ニ浮越シ發  
黄トナルナリ其説ノ詳ナルヲハ黄疽門ニ載ス瘟  
黄ノ邪ハ一種ノ雜氣ニシテ必ス肝膽ノ二臟ニ著  
キ肝膽之力爲ニ亦壅閉シテ發黄スルナルヘシ其

病感胃ヨリ重ク瘟疫ヨリ輕クシテ必ラス肝膽ニ著クハ<sup>ヒキカセ</sup>蝦蟆瘟ノ必ラス耳下ニ著キ頭瘟ノ必ラス頭面ニ著ト同シ

年年一兩人ツ、ハ之ヲ患ル者アレ氏世醫皆輕疫ノ發黃トノミ心得テ一種ノ瘟黃病ナルヲ明辨セス嘉永甲寅ノ春瘟黃大ニ行ハレ府下並ニ近村旁邑ニ及ヘリ初發ハ微シク惡寒發熱シテ感冒ノ如クニ見ヘ喜嘔シテ飲食ハ勿論水藥俱ニ納ラス心下及右脇下急脹シテ手觸レ近ツクヘカラス世醫謾ニ食傷ト為シテ中正湯及備急圓ノ類ヲ與ルニ

愈嘔逆シテ止マス至極險證ニ見ユル處三四日ニシテ乍チ發黃シ面目橘子色ニナリ小便モ<sup>ソチナ</sup>山梔子汁ノ如クニ通シ身體痒クシテ疹ニテモ發シタルヤウニ覺ヘ常ノ黃疸ニ異ナラサレ氏發黃シテ後ハ熱モ減シ嘔氣モ止ミ食氣モ出テ黃モ亦自ラ去リ多クハ前後十餘日ニシテ全快セリ初ハ人人何病ナルヲ知ラサレ氏後ニハ天行病ニ定リタルユエ市井ノ者モ黃疸風ト稱セリ

治法ハ初ノ洒淅トシテ惡寒スル者ヘハ葛根湯ヲ與フヘシ喜嘔スルニハ半夏瀉心湯小半夏加茯苓湯

ヲ撰用ス發黃スレハ茵陳五苓散ニ宜シ脇下ノ痞  
鞭シタル所ニテハ大柴胡湯茵陳蒿湯等ニテ下シ  
タキヤウナレ氏夫ニモ及ハス矢張茵陳五苓散ノ  
一方ニテ足レリトス

瘟黃應用方

葛根湯 半夏瀉心湯 小半夏加茯苓湯

茵陳五苓散

歷節風

白虎歷節風

痛風

歷節風ハ古名ニテ金匱要略ニ載ス後世ニ至リ痛風  
ト通稱ス丹溪ノ格致餘論ニ痛風ノ論アリ然レハ  
痛風ハ元以降ノ名ナルヘシ素問痺論ニ所謂痛痺  
行痺ハ蓋シ痛風ノ類ナリ白虎歷節ハ外臺及三因  
方直指方等ニ出ツ其病狀白虎ニ咬ル、ヤウニ疼  
ムニ因テ名ツケタルナリ

其因古ヨリ風寒溼ノ三氣ニ中リテ發スルヤウニ説

キ来レ氏凡ノ外感ノ諸病ハ獵漁耕牧或ハ商旅等  
ニテ風雨寒冷ヲ冒シテ後ニ病ムモノ故臆度シテ  
三氣ニ屬シタル者ナルヘシ此邪必ラス關節ニ著  
キ又遊走スル所ニ由テ考ルニ是モ亦一種ノ雜氣  
ニシテ瘟黃ノ肝膽ニ入り脚氣ノ筋ニ著ト同シナ  
ルヘシ

初發ハ憎寒壯熱シテ脈浮數ニナリ或ハ頭痛或ハ頭  
眩或ハ渴シ或ハ嘔シ或ハ汗出或ハ赤疹ヲ發シ感  
冒ノ如クニ見ヘテ頸項肩髀腰臑四肢ノ關節微腫  
シテ疼ミ其疼遊走シテ定マラス肩ノ痛去テ乍チ

臂ニ移リ臂ノ痛緩メハ又腕へ腫レ出シテ總身ノ  
關節ヲ經歷ス故ニ歷節風ト名ツケタルナリ

此病死生ニハ關カラサレ氏治シ難キモノナリ一旦  
愈タル様ニテモ二三月ニシテ又發シ或ハ年年或  
ハ六七年ニシテ再發スルモ有リ其毒深キ者ハ荏  
苒トシテ永ク愈ヘス身體羸瘦シ關節ノミ硬腫シ  
テ大ニナリ筋モ攣急シテ屈伸スルヲ得ス其狀  
痘毒ニテ筆磬ニナリタル者ニ同シ又關節へ癰癩  
トシテ大核ヲ結フ者アリ總身不自由ニナリテ食  
ニ對シテ箸ヲ把ルヲ得ス更衣ニモ起テ能ハス

永ク廢人ニナリ北風霖雨等ノ時ハ更ニ腫痛ヲ加フル者ナリ

此病本外感ナレハ最初ニ能ク療治スレハ其毒盡ク去テ再發セス素人ハ痛風へ醫藥ハ効ノ無キ者ニ心得家家ノ賣藥或ハ夢想ノ藥ト稱スルモノ或ハ鳶ノ燒灰ノ類ヲ妙藥ト為シテ雜服シ日ヲ延ウチニ壞病トナル者多シ歎スヘキナリ治法ハ寒熱等ノ有リテ表位ニ屬スル者ハ葛根加朮附湯若シクハ越婢加朮附湯ヲ撰用スヘシ若シニ方ニテ効ナキ者ハ桂枝芍藥知母湯ヲ與フヘシ疼痛ノ甚シ



キ者ニハ乳香沒藥二味ヲ糊丸ト為シ日ニ五分以兼用スヘシ寒熱ノ薄キ者ハ桂枝加朮附湯ニ宜シ若シ又シク瘥スシテ關節硬腫シ筋ノ攣急シテ痛ム者ニハ大防風湯獨活寄生湯ヲ撰用スヘシ驅風丸ハ此病ニ奇効ノ有モノナレハ其證ノ新陳輕重ヲ論セス兼用シテ可ナリ外用ニ第一奇驗ノ有ルハ石灰水ナリ輕證ハ服藥ヲ與ヘス石灰水ノミニテ治スル者尠ナカラス或ハ發泡膏ヲ貼シ或ハ猛汞丹ヲ居風呂ニタテ、浴セシムルモ可ナリ予近來新驗シテ別ニ良方ヲ得タリ其術關節ノ腫

痛スル處ヲ縱意ニ割開シテ創ヲ作り破敵ヲ貼ス  
ルキハ膿血淋漓トシテ出テ其毒悉ク去テ全治シ  
タル者頗ル多シ關節ハ癭癰トシテ結核ノ有ル者  
ハ瘤ヲ取ノ法ノ如ク截斷スヘシ  
諸關節ノ腫漸消シテ後但膝頭ノミ腫ル者ハ即鶴  
膝風ナリ膿ニ化スル者ハ勿論敗液ノアル者ハ膝  
頭ノ左右ヲ刺テ敗液ヲ去リ破敵ノ紙摺膏ヲ挿入  
ス瘍科秘錄鶴膝風ノ條ヲ參考スヘシ或ハ膝眼微  
腫シテ色ヲ變セス煩疼シテ歩行スルコトヲ得ス諸  
藥驗ナキ者アリ此亦歷節風ノ一證ナリ之ヲ割開

スル片ハ粘稠ニシテ膠飴ノ如キ敗血ノ出ル者ナ  
リ跡へハ破敵ヲ貼スレハ膿血自ラ盡テ全愈ス凡  
ソ膝頭ヲ刺スノ法縱意ニ割開スルヲ善トス若シ  
姑息ニシテ微シク刺キハ却テ焮熱腫痛ヲ起シ大  
ニ難澀スルコト有リ歷節風ハ如何ホト腫テモ先ツ  
膿ニ化スルコト無キ者ナレ氏稀ニ關節及肋骨マテ  
膿ヲ釀シ附骨疽ニ變スル者アリ瘍科秘錄ニ辨ス  
歷節風應用方

驅風丸家試治歷節風

- 松脂 二十錢
- 白朮 各五錢
- 薏苡仁 各五錢
- 甘草 五分

石四味 研末糊丸 以酒或白湯送下 日一錢

石灰水 治腺腫 瘰癧 關節漫腫 強壯衰弱 稀解粘液

石灰 新燒 百錢 兩水 一貫五 百錢

右二味 調勻澄定 取上清

桂枝芍藥知母湯 葛根加朮附湯 越婢加朮附湯

桂枝加朮朮附湯 大防風湯 獨活寄生湯

癰癤

風疹

風搔

癰癤ハ外臺ニ出ツ和名ヲ「カザホロシ」ト言フ是モ雜氣ニ中リタルナリ宿疾ノヤウニナリテ二度モ三度モ之ヲ患ヒ或ハ毎年其時節ニ至ルキハ必ラス發スル者アリ蓋シ其資質癰癤ノ邪ニ感シ易キ者ニシテ決シテ内因病ニアラス世醫或ハ徒ニ呼テ發斑ト為スモノハ誤ナリ丹溪心法ニ有色點而無顆粒者曰斑浮小而有顆粒者曰疹隨出即没而又出



トアリテ斑ハ皮膚ト平等ニシテ微モ起ラス唯色  
點ヲ見ハシ蚊ハ蟻ハ咬ハ打撲青斑等ノ如クニ發スル  
者ナリ疹ハ皮膚ヨリモ一段隆ク起リテ顆粒ヲ成  
ス者ナリ顆粒ニ尖圓ナルト扁平ナルトノ二證アリ

癩癬ノ候ハ惡寒發熱脈浮數ニシテ感冒ノ如ク疹子  
隱隱トシテ皮膚ノ間ニアリ疹頭扁平ニシテ尖圓  
ナラス或ハ顆粒ヲ成シ或ハ五六箇合併シテ雲片  
ノ如クニナル者アリ桃花色ニシテ甚夕痒ク之ヲ  
搔キハ爪痕モ長ク腫レテ蚯蚓ノ如クニナリ若シ

温覆スル片ハ乍チ消シ風ニ當ル片ハ復發シ幾度  
モ隱顯シ多クハ腹痛スル者ナリ此ハ痘瘡ノ序熱  
ニ腹痛スルト同シ膚淺ノ病ニテ治シ易キ者ナレ  
比其人ノ資質ニ因テ感スル者ナレハ再發ヲ防ク  
ヘカラス桂枝加葛根防風湯ニテ全治スルナリ又  
荆防敗毒散防風通聖散ノ類ヲモ撰用スヘシ  
痘瘡瘟疫天行中風及輕粉生乳カ加魯ロ茂兒等ノ瞑眩  
ニテ疹ヲ發スルハ疹子尖圓其色深紅ニシテ麻疹  
ノ如ク眼中及咽喉ヘモ發シテ癩疹ト少シク異ナ  
レ氏治法ニ至テハ癩疹ノ方劑ヲ撰用シテ可ナリ

癘癧應用方

桂枝加葛根防風湯

荆防敗毒散

防風通聖散

中風

偏枯

風痺

類中風

風癱

急中風

卒中風

真中風

卒中

中氣

中風ハ金匱要略ニ載ス歴史ニ在テハ前漢書自叙傳ニ出テ、漢以降ノ名ナリ病名ニモ中風ト云ヒ藥劑ノ中ニモ祛風發表ノ藥ヲ多ク用ヒタルニテ考ルニ病因ハ風邪ノ所致ト為シタルナルヘシ王安石道ハ此説ヲ奉セリ劉河間ハ火ト為シ朱丹溪ハ溼ト為セリ皆臆説ニシテ從フヘカラス獨リ李東垣ノ蘭室秘藏ニ非外来風邪乃本氣自病也ト云タルハ實ニ卓識ナリ嘗テ西説ヲ閱スルニ腦海ハ精神ノ所舍ニシテ白經ノ此ニ起リ總身ヘ蔓延シテ寒熱痛痒等ヲ知覺スルヲ主ル者アリ譯シテ神經

ト曰フ中風ハ即腦及神經ノ病ナリ其病腦ニ在テハ精神錯亂シ四肢ニ在テハ癱瘓麻痺等ノ諸證ヲ發ス

中風癰證ハ古ヨリ判然トシテ二病ニ分チタルニ實ハ一病ナルヘシ少壯ノ時ニ發スルハ癰ノ諸證ヲ見ハシ老衰ニ及テ發スルハ中風ノ諸候ヲ發スルナリ譬ハ驚癰ハ一病ナレト長幼ニ因テ其見證異同アレハ小兒ニ在テハ驚風ト名ツケ大人ニ在テハ癰癩ト曰フカ如シ故ニ初メ癰ノ諸證ヲ發シ一旦差テ後再發スルハ中風ノ諸證ヲ備ル者

アリ或ハ初中風ヲ患ヒ一旦差テ後再發スル片ハ  
癩證ニナル者アリ又按スルニ驚風癩癩發狂中風  
ノ四ノ者ハ蓋一病ナレ氏長幼ニ從テ不同小兒ノ  
癩ヲ患ヒテ半身不遂スルハ即小兒ノ中風ナリ大  
人ノ卒中風ハ即大人ノ急驚風ナリ古人中風癩證  
ヲ分テ治法ヲ立ルト雖氏證候相混淆シ藥方モ亦  
大同小異ノミ今四病ノ一因ナルヲ彰然トシテ明  
ナリト雖氏從來ノ舊染ナレハ遽ニ改ルヲ能ハス  
且四病各異同アリテ治法モ亦各證ニ從テ同シカ  
ラサレハ尚舊說ニ從テ各門ヲ分ツノミ

中風ハ倉卒ニ發スル者ノ様ニ心得テ居レ氏多クハ  
微漸ノ有ル者ナリ素人ノ故自覺セス又心付テ  
モ輕證ト侮リテ醫藥ヲ請ハス遂ニ大患ヲ發スル  
ニ至ル者ナリ笑フ口ノ喎斜スルモノ眉ヲ舉ル  
ニ偏舉ラサルモノ雙手ヲ陰陽水ニ入ル、ニ一手  
ハ暖ヲ覺ヘ一手ハ冷ヲ覺ユル者遠路ヲ步行シテ  
偏脚ノミ疲勞スルモノ食指次指ノ麻木不仁スル  
モノ何事ニモ倦易クシテ喜欠スルモノ是皆中風  
ノ先兆ナリ又喜ンテ睡リ獨坐スレハ勿論對客ノ  
間ニモ催睡シテ覺ルヲ少ナク常ニ記臆シタル朋

友ノ姓名等ヲモ卒ニ言フヲ得ス或ハ物ヲ置忘レ  
或ハ頭眩或ハ喜笑等ノアル者ハ日ナラスシテ中  
風ヲ發スルノ兆ト知ルヘシ

中風預防ノ藥諸方書ニ載テアレ氏藥餌ニテハ防キ  
難シ思慮ヲ省スルト飲酒ヲ禁斷スルトヲ第一ト  
ス思慮ヲ費スルハ精神ヲ耗散シ沉醉スルハ又  
能ク精神ヲ擾亂スニナカラ腦海ヲ傷テ中風ノ因  
トナルナリ

此病難治ニシテ全快スルヲ稀ナリ一旦治スル者モ  
再發シテ遂ニ鬼簿ヲ免レス輕證ハ永ク因循トシ

テ愈ルヲモ無ク再發スルヲモナク但廢人ニナリ  
テ七八年或ハ十餘年死ヲ免ル者アリ身體ノ不  
遂スルノミニテ精神ノ變ラヌ者ハ其病四肢ノ神  
經ニ在テ未タ頭腦ヲ侵サレハ急ニハ死セヌ者  
ナリ精神恍惚トナリ或ハ昏憤スルモノハ其病深  
ク頭腦ヲ犯スニテ永ク生ルヲ能ハス

此病微漸ニ起ル者モアレ氏緩急ニ證俱ニ多クハ卒  
ニ發ス飲食ニ對シテ箸ヲ落シ或ハ廁ニ上リテ起  
リヲ得ス或ハ烟草ヲ幾回捫リテモ火頭へ入ル、  
リヲ得ス或ハ履屐自ラ脱テ再ヒ足ヲ容ル、リヲ

得ス以上ノ諸候アリテ卒ニ倒レ半身不遂シテ微  
 冷シ或ハ微腫シ少シモ動カサル者ハ循ノ付カス  
 ル者ナリ指ニテモ少シク動ク者ハ後ニハ近隣ク  
 ラヒハ歩行スル様ニナル者ナリ口眼喎斜ニナリ  
 偏眼大ニシテ淚常ニ流レ口ヨリモ涎ヲ滴シ飲食  
 モ溢ル、者ナリ舌ハ強リテ言語蹇澀シ或ハ喑啞  
 シテ少モ言語ノナラヌモ有リ偏身ハ皮膚モ癢痺  
 シテ知覺少ク脈浮緩ニシテ微熱ノ出ルモ有レ氏  
 多クハ熱ノ無キ者ナリ舌ニモ胎ヲ生セズ飲食モ  
 減セヌモノナリ或ハ食ノ進ムモアリ大便ハ秘結

シテ幾日モ通セヌモノナリ以上ノ諸候ハ皆神經  
 閉塞シテ所致ナリ大便ノ秘結スルモ腸ノ不遂シ  
 テ傳送ヲ惰リタルナリ或ハ頭眩或ハ耳聾或ハ目  
 盲或ハ喜テ欠シ或ハ喜テ笑ヒ或ハ喜テ悲ミ兎角  
 淚モロクナリ親族朋友等ニ逢フ片ハ忽チ涕泣シ  
 テ止マス是皆頭腦ノ衰弱ニ由ルナリ  
 中風ハ精神耗散ヨリ起ル病ニテ名利ノ爲ニ思慮ヲ  
 費シ或ハ君ノ左右ニ近侍シテ心配スル者ニ多シ  
 輕證ニシテ一旦愈テ平生ニ復シタル様ニ見ユル  
 者モ試ニ碁ヲ圍ム片ハ必ラス一目モ二目モ手ノ

下ル者ナリ此ニテ精神ノ耗散シタルヲ知ルヘシ

輕證ハハ味順氣散若クハ烏藥順氣散ヲ撰用スヘシ  
微冷スル者ハ桂枝加苓朮附湯ニ宜シ平素氣血衰  
弱シテ小便頻數或ハ遺尿等ノ有ル者ハ腎氣丸ニ  
宜シ頭眩健忘精神恍惚或ハ喜<sup>コト</sup>テ悲傷スル者ニハ  
歸脾湯ヲ與フ肌肉滿壯ニシテ面目赤ク偏面微腫  
スル者ハ涼膈散ヲ與ヘ刺絡スヘシ諸藥効ナクシ  
テ久シク瘥サル者ハ羚羊角煎若クハ侯氏黑散ヲ  
撰用スヘシ支節煩疼スル<sup>ト</sup>痛風ノ如キモノハ桂

枝芍藥知母湯若クハ大防風湯ヲ撰用スヘシ烏犀  
圓ハ風痺通治ノ良藥ナレハ病ノ新舊虛實ヲ論セ  
ス日ニ兼用スヘシ

卒中風ハ中風ノ重證ニテ卒然トシテ暈倒シ衝心シ  
テ頑痰白沫及黒液ヲ吐キ昏沉シテ人事ヲ省ミス  
脈浮大ニシテ遲緩ニナリ發熱汗出テ顔赤クシテ  
粧<sup>シ</sup>フカ如ク鼻息<sup>ハ</sup>鼾睡スルニ似テ喜テ欠シ口眼喎  
僻ニナリ眼合シテ開カス試ニ之ヲ開クニ上竄直  
視シテ微モ眇セス或ハ瞳孔散大シ牙關緊急シテ  
藥餌<sup>ヲ</sup>口ニ入ル<sup>ヲ</sup>得ス強テ入ルハ<sup>ハ</sup>口中ニ溜

リ或ハ咽テ噴出シ舌ハ黄胎或ハ黑胎ニナリテ氣  
 息臭ク涎潮壅盛ニシテ其聲鋸ヲ拽カ如ク半身不  
 遂シテ手足<sup>サカレ</sup>痺曳ニナリ無病ノ手足ハ膂力一倍シ  
 躁擾シテ止マス或ハ面目ヲ摩挲シ或ハ衣ヲ拈リ  
 或ハ衣縫ヲ尋子或ハ搐搦ヲ發シ病劇シキ者ハ不  
 遂シタル手足モ癱瘓スルコト有リ或ハ寢衾ヲ脫却  
 シ呼ヘ氏應ヘス活術ヲ入ルレ氏知覺セス遺尿ス  
 ル者ハ必死ト為ス然レ氏之ヲ呼フニ乍チ應シテ  
 眼ヲ開キ舌ヲ出サシムルニ即舌ヲ出シ藥モ少シ  
 ツ、飲ミ粥モ少シツ、啜リ活術ヲ入ル、寸ハ聲

ヲ發シ小便滿ルキハ看待ノ者へ告テ遺尿セサル  
 者ハ生路ヲ得ルコト有リ初發ハ三黃湯參連湯及蘓  
 合香圓熊膽ノ類ヲ與ヘ小續命湯若クハ大續命湯  
 ヲ撰用スヘシ喜嘔スル者ハ半夏瀉心湯ニ宜シ胸  
 脇苦滿シテ渴スル者ハ柴胡加石膏湯心下急ニシ  
 テ數衝心スル者ハ大柴胡湯ヲ與フ痰涎壅盛スル  
 者ニハ麻杏甘石湯蘓子降氣湯竹瀝薑汁等ヲ撰用  
 スヘシ又烏犀圓忽弗滿鎮痛液及鍼灸ヲモ兼施シ  
 テ百死ノ中ニ一生ヲ求ムヘシ  
 中風初發ハ右身不遂シテ一旦全快シ再發スル氏ハ



移轉シテ左ノ不遂スルコト有リ或ハ初發左身不遂  
シ一旦全快シ再發スル氏ハ移轉シテ右身ノ不遂  
スルコト有リ再發スル氏ハ多クハ卒中風ニシテ死  
スル者多シ

卒中風ハ頭腦神經俱ニ病モノナレハ死ヲ免レサル  
コト必然ノ理ナリ衝心ハ心ノ擊急嘔吐ハ胃ノ搖擲  
遺尿ハ膀胱ノ不遂ナリ他ノ諸證モ亦此ニ準ス  
中風癲癩ノ類ニテ不省人事牙關緊急スル者ハ湯藥  
ヲ用ヒ難キ者ナリ曲頭管ニテ牙際ヨリ吹入ル  
ノ法アレ氏思フ様ニ入コトヲ得ス嘴ノ付タル器ニ

テ鼻孔ヨリ灌ク氏ハ自在ニ入モノナリ

中風應用方

大續命湯 外臺 療毒風賊風身體不能自收咽中卒不得

語若拘急腰痛目眩反張恍惚恐懼上氣嘔逆面腫

杏仁 三十枚 芎藭 石膏 甘草 桂心 當歸

麻黃 兩 黃芩 各一兩 乾薑 三兩

右九味煎服

八味順氣散 濟生 治中風氣虛痰涎壅盛者

白朮 茯苓 青皮 白芷 陳皮 烏藥

人參 各一錢 甘草

右八味姜煎服

烏藥順氣散 局方 治風氣攻注四肢骨節疼痛肢體頑麻

并氣滯肩膊麻痺之類

烏藥 陳皮 各二錢 殭蠶 乾薑 各二分 麻黃

川芎 白芷 桔梗 各一錢 甘草 三分 枳殼 一錢

右十味薑棗煎服

羚羊煎 聖濟 治中風手足不隨

羚羊角 荆芥穗 羌活 熟地黄 乾地黄 各一兩

防風 二兩 黑豆 二錢 酒 伍升 兼防風黑豆熟淋之

右七味先以四味吹咀如麻豆每服五錢匕用前豆淋

酒一盞半同煎至八分去滓重煎如膏每空心溫酒調服日三夜一不拘時

烏犀圓 局方 治犬夫婦人卒中諸風牙關緊急膈上多涎

或語言蹇澁口眼喎斜用薄荷汁與酒各少許化參圓

服之良久再服立有大效又治癱瘓暗風癩病手足潮

搐心神不安遍身頑麻風痔瘻腎藏風毒上攻下疰婦

人血氣頭旋吐逆皮膚腫痒遍身疼痛

硫黃 為末用瓶蓋慢火養成汁入水銀急炒如青泥成砂細研 水銀

附子 水浸炮去皮臍 川芎 石斛 去根 蟬殼 去土微炒

龍腦 別研 朱砂 水細研飛 雄黃 同 肉豆蔻仁 微炒

牛黃 半別研各 臍粉 一別研 當歸 去蘆酒

烏犀 二鎊各 天南星 湯浸生薑自然汁煮

天麻 酒浸 阿膠 如杵碎炒

川烏頭 燒令通赤留烟少許入坑內以

陳皮 湯浸去 白花蛇 酒浸一宿炙令 烏蛇 同

白姜蠶 去紫絲 半夏 湯洗柴次薑汁 羚羊角 鎊

乾蝎 微炙 羌活 去蘆 獨活 同 藿香 去土

草薢 微炙 肉桂 去蘆皮 麻黃 去蘆

白附子 微炮 細辛 去苗 防風 去蘆頭 槐膠

縮砂仁 各一 沉香 不見火 白朮 米泔浸一宿

桑螵蛸 微炒 厚朴 去蘆皮姜汁 人參 去蘆

天竺黃 細研 乾薑 炮裂 茯苓 去皮 藁本 去土

蔓荊子 去白皮 栝榔 一兩 麝香 別研

晚蚕蛾 微炒 木香 不見火 枳殼 去穢切

敗龜 酒醋塗 丁香 不見火 何首烏 米泔浸一宿

白芷 以上各 狐肝 三具臘月採取同烏鴉一隻入

烏鴉 一隻臘月採取去翅翳足一本縮砂仁

右件伍拾捌味並須如法修事搗研令細煉白蜜合和

入酥再搗參伍杵下圓如梧桐子大常服一圓不計時

薄荷湯或茶嚼下。

藜香圓 濟生 治氣中或卒暴氣逆心痛鬼魅惡氣專能順

氣化痰

沉香 雞舌香 白檀 葶撥 安息香 辰砂

犀角 白朮 訶子 香附子 各十錢 麝香 八錢

龍腦 薰陸香 藜香油 各五錢

右十四味煉蜜調之。

大紫胡湯 麻杏甘石湯 桂枝加芍藥知母湯

侯氏黑散 半夏瀉心湯 桂枝加苓朮附湯

腎氣丸 三黃湯 紫胡加石膏湯 歸脾湯

涼膈散 大防風湯 小續命湯 藜子降氣湯

參連湯 熊膽 竹瀝 薑汁 忽弗滿鎮痛液

内科秘録  
卷之四

自  
中  
高  
雅

内科秘録卷之四



